

“鉄血勤皇隊に入れ”と

いわれたらどうする？

里 井 洋 一

(一) はじめに

私が沖縄県教職員組合那覇支部青年部・婦人部・補充教員部主催の沖縄戦公開授業をせざるをえなくなつたのは、沖縄組那覇支部主催の南部戦跡めぐりのガイドをして「里井さん、ガイドうまいな、今度公開授業あるのだが、やってみないか。」というほめ言葉にうまく乗せられたからであつた。私は、「那覇支部主催なんだから、教材づくりを一人でするのはいやだ。みんなで指導案づくりしようよ！」とだだをこね、青年部（安良城・平良・津嘉山・神谷・糸数各氏）、補充教員部（石川氏）、那覇市史編集室（真栄里氏）とともに、指導案・教材づくりをすることとなつた。私は、教材づくりをするにあたって次のような基本構想を示した。

I、やる日・7月11日（金）四時限目

II、場 所・首里中学校一年八組

III、留意点・今までの平和教育特設授業は、沖縄戦の
事実経過・証言を紹介することにより、「二度と戦

争はしない。平和は尊い。」という生徒の感想を引き出すことに成功した。しかしながら新里恵二氏から、「沖縄戦の悲惨さ、日本軍・自衛隊の醜さを道徳的に説教するだけの特設授業Ⅱ反戦平和の修身教育という偏向に陥っていないだろうか。」（「修身教育と科学教育の差異」『沖縄思潮』創刊号）という問題提起がなされた。そこで私は、たしかな根拠にもとづく理性的認識を培う授業を創り出したい。また、授業の中で、教師が一方的におしつける授業ではなく、子供が授業に参加して彼ら自身の認識をゆさぶるような授業を創り出したい。

IV、到達したい最終目標・戦前、なぜあの人権抑圧・ファシズムに抵抗できず戦争に突入したのか、という問題意識の上から、不当な抑圧に対して熱くなくて闘え、現実に対して冷静な科学的な目でみる子供を育てたい。

V、そのための発問案

① 渡嘉敷島赤松大尉は集団自決に対して責任があると思うか。

1. 赤松には責任がある。

2. あの状況ではしかたなかった。

3. あの状況をつくった全員に責任がある。

② 糸数の壕に入つて来た人を射殺したことに對して責任を問うとすれば、

1. うつた人は責任をとれ。

2. しかたない。

3. あの状況をつくった全員に責任がある。

③ 君たちが、当時の中学生で、護郷隊（スパイとして後方かくらんを任務）に入れと言われたらどうする。

1. 入る。

2. 入らない。

3. 逃げる。

(二) 指導案づくり

前述の基本構想に対して議論がなされた。Iは、朝では人が来ないということと5時限目に変えられた。

IVに関しては、授業に関する目標がないと指摘され、科学的な目をつくるには、まず戦前の日本の社会状況を認識することが必要だということと、不当な抑圧に対して闘え

るには、平和は主体性をもつてしか勝ちとることができないんだということを認識させられたらいいな、ということが確認された。そして、前記二点が本時の目標となった。

Vに関しては、①は誰が命令を出したかということがわからなくなり不可知論におちいるということで①が外され、③は生徒と同年代でいいということで③がえらばれた。

③について細かく議論した結果、護郷隊より鉄血勤皇隊の方が首里高の前身が一中ということで首里中学生徒によりみじかであろう。また、鉄血勤皇隊員の日本の国のためと身内を心配する気持ちとのゆれがあつておもしろい遺書が真栄里氏から紹介されたため、護郷隊をやめて鉄血勤皇隊にかえることにした。答も「入る」には二種類あると提起され、積極的に入るとしかたなく入るに、また、「入らない」は他の人たちには行かないよう説得し絶対に行かないと厳密に規定された。その結果、発問は次のようになった。

●君たちだったら鉄血勤皇隊に入れと言われたらどうする。

ア、いさんで入る。

イ、しかたなく入る。

ウ、逃げる。

エ、いかにいように説得してまわる。

発問に対する答の予想を、全員が生徒になってたててみた。思いつくまま出した。

ア、いさんで入る派

- ① 男らしい。② 自分の国は自分で守る。③ 戦争はカッコいい。④ 戦争が好き。⑤ 親や兄弟を守りたい。⑥ 正義をつらぬくため。⑦ アメリカをやった方がいい。

イ、しかたなく入る派

- ① みんなが行くから。② 当時としてはやむをえなかった。③ いかないと罰される（非国民として）④ 恥をかきたくない。⑤ ひきょうといわれたくないから。⑥ 当時の教育ではやむをえない。⑦ 親や兄弟を守りたい。⑧ だまっていたら敵に殺される。⑨ アメリカがせめてきたからしかたがない。⑩ 殺される前に殺す。

ウ、逃げる派

- ① こわいから。② 死にたくない。③ ばかばかしい（無意味だから）④ 人殺しはしたくない。⑤ 家族とわかれたくない。⑥ まちがった戦争だから。

エ、いかないうちに運動する派

- ① まちがった戦争だから。② 人が人を殺すのは絶対によくないから。③ 平和は尊いから。④ 戦争は

すべてだめ（生命をうばうため） ⑤ 戦争はいやだから。

このようにみんなが、予想を出して、イメージづくりをして、指導案づくりをした。そのようにして指導案ができた。△資料1▽

（三）授業記録

T1 学級通信の一二九号、鉄血勤皇隊って、みなさん知っていますか。

（知っている。知らんという声あり）

T2 中学校は戦前は12〜17才、5年制の男子だけの学校です。その4、5年生によって集められた軍隊を鉄血勤皇隊といいます。で、ここにありますが遺書は、当時一中、現在の首里高校、とよざとのぶおが鉄血勤皇隊に入って戦場へ行くとき書いた遺書です。それを読みます。

（遺書△資料2▽T読む）

T3 この遺書を書いたのは、一九四五年の四月です。当時那覇はどういう状況だったかというところと焼け野原、これが那覇の写真です。

（パネルをみせる）

T4 このような状況の中で米軍は上陸してきた。この中で、この遺書を書いた。そこです。今日の議論してもらいたい中身は、これです。

(あらかじめ用意しておいた鳥の子用紙に、発問と選択肢を書いたものを黒板にはる。)

T 5 鉄血勤皇隊に入れと言われたらどうするか! (相談する声) という問題です。

ア、勇んで入る。

イ、しかたなく入る。

ウ、逃げる。

エ、行かないように説得してまわる。

T 6 一九四五年四月、鉄血勤皇隊に入らないかと言われた。この陳雄君と同じ立場だったらどうするか。女の人にも男になって考えて下さい。考える資料、ここにありません。各班、又、プリント取りに来て下さい。

(戦時下の社会状況のプリントと問題と選択肢を書いたプリントへ資料3Vを配る)

T 7 よし、質問、アイウエで質問。

T 8 質問、どうぞ、はい。

P 1 行かないように説得してまわるって(いうことは)自分が言われたらみんなを説得してまわるということですか。

T 9 そう。例えばさ、「おまえ、鉄血勤皇隊に入らんか。」といわれたら「わしゃ入らん。」と言って「おまえら入るらしいやないか。入らんようにせー。」と言って、言うわけ、いいですか。他に質問……… じゃ、なかつたら今

から5分間与えますので、アイウエ選んで下さい。そして理由を書いて下さい。始めて下さい。

(T、机間巡視始める。意味がよくわかっていないようなので。)

T 10 アイウエに○をつける。アイウエに○をつけて。

(机間巡視続ける。途中、鉄血勤皇隊の仕事内容を言うのを忘れていたため、あわてて教卓の方へ歩み出しながら。)

T 11 えーですね。鉄血勤皇隊の仕事言います。どんなことやるかといえますと、最前線がありますね。そして後方の本部がありますね。この間に電話の線が走っています。この電話の線を切らないように番をしてまわる。だからたとえばね、本部にいて、電話がかかってきていたんですけど、きれたんですね。そうしたら、原因はどこにあるのかと見にくわけです。(部隊が)全滅してたらその全滅していた場所に行かないといけない。そして、「あすこは全滅していました。」と報告するようになってくる。こういう風な仕事をやる。あとは普通の兵隊と同じです。

(机間巡視、又始める。隣近所と相談している)

T 12 今、相談するな。相談するな。自分の頭で考えれ。(机間巡視しながら、子供達の選択をみると、みごとに四つに分かれている。どこが少ないということはな

いようであつたから、議論させるのにちょうどいいと考えニタツと笑う。机間巡視中)

P 2 逃げたらどうなるの。

T 13 すぐ、殺される?

P 3 つかまらないように逃げればいいじゃないか。

T 14 日本はさ、中国から東南アジアまで全部当時は占領している。海渡つたら、海にはアメリカの潜水艦が待ちうけている。どこへ逃げる。

P 4 逃げるというのは一人ですか。

T 15 逃げるというのは、この場合一人です。

(集団で逃げることは当時の社会状況から考えて不可能であると判断したため。又机間巡視開始。また、相談しているのをみつけ)

T 16 人のみるな。自分の頭で考えれ。インビョウ、おまえ、自分の考え方でええのや。

T 17 よし、もう5分たつたけれども、時間ええか。

(いるという声)

T 18 いらんか。

(いるノという多くの声)

T 19 いる人、ハイ。

P 5 10分。

T 20 10分、多い。

P 6 5分。

T 21 5分も多い。

T 22 3分、3分以上認めないからね。おまえら、早く帰りたいやろ。

(ハーイという声、はよ帰りたいやろと発言したのは放課後むりやり残していたためである。机間巡視)

T 23 あと一分です。

(机間巡視。静かになり、全員理由も書きおえたようである。)

T 24 よし、できたか。全員どこかに手をあげること。あげないのは、きたないぞ。

T 25 ア、行きます。勇んで入ると書いた人、手を上げて下さい……九人。

次、仕方なく入るという人……九人。

逃げるという人……七人。

最後、行かないように説得してまわる……六人。

(前にはつてある鳥の子用紙に人数を書く)

T 26 アは全員、六班(教室右後)に集まれ、イは全員こ(教室右前)ウは(教室中前)、エは(教室左)

(アイウエに分れて、移動に要した時間1分。どこが一番まとまっているのか。競争組織化。)

T 27 では、今からそこで相談しまして代表二人決めて理由を言ってもらいます。さあ始め。

(相談する。)

T 28 二人代表決まった？ 手あげて、決まってるのは
最大多数の工派、工派あかんか。よし、はい手をおろせ。
では発表してもらいます。もつとも先に発表したい班手
あげえ。

T 29 手あげえ。一番早かった。いいこう、イ。

(イの代表発表し始めるが、まわりがうるさい)

T 30 聞いとけよ。おい他の班、メモっておけ。あとで反
論させる。質問させるからメモれ。ハイ、行け。

P 7 逃げたら殺されるから、どうせだったら国のために
役立った方がいいから。それに、まちがったら死ぬかも
しれないから。

P 8 行かないと他の人なんか非国民と言われる。それ
から、国のためにも行かなければならない。入らないと
何かいわれ、殺されるかもしれない。

T 31 よし、オーケー、これがイの議論です。逃げても死
ぬ。どうせ逃げても殺されるんや、国の役に立とうやな
いか。非国民と言われるやないか。と言ったわけです。

(生徒が言っている間に、その言わんとしていること
を要約し、板書して、それを読みあげた。以下同じよ
うにした。)

T 32 よし次。(大きな声でハイ、ハイという声と挙手)
逃げる。

P 9 どうして逃げるかというと、よく映画なんかみる戦

争なんか、だいたいバタバタとたくさんの人が死ぬので
ぼくは死にたくないし、こわいから逃げる。

T 33 死にたくない、こわい。

P 10 運動しても、いれられる確率があるので逃げて助か
った方がいい。そして、エのように答えても、どうせ家
族は非国民とか何とか言われるし、えーと家族もいつし
よに逃げて、そのまま自分だけで逃げたら、いろいろ言
われるし、えーと家族もいつしよに逃げて、そのまま自
分だけで逃げたら、いろいろ言われて殺されるかもしれ
ないし、何年間か刑務所に入るのもいやだし、もし、鉄
血動皇隊に入るとしたら、やっぱり死ぬのは決まってい
るし、どうせ死ぬんだったら少しでも長く生きていたい
し、こんなことにも反対できない世の中だったら、役に
たとうとも思わないし、自分の意志で考えがはつきり言
えるように生きていたいから。

T 34 ようするに、死にたくない。エのように運動したら
非国民と言われる。刑務所に入りたくない。少しでも生
きていたい。

P 11 まだ、ある。

T 35 まだ、ある？

P 12 こんなことにも反対できない世の中だったら、別に
国のために役だとうとも思わないから。

T 36 国の役に立ちたくない。

P 13 “こんな”がついている。

T 37 “こんな”ね。こんな国の役に立ちたくない。

T 38 はい、いこう。次、勇んで入る。いこう。
(うれしそうなざわめき)

P 14 国のためにアメリカ人を殺したいから(笑い)しかたなく入っても、やる気がなかったら、だめだから、それにウ逃げるは、逃げているときに同じ日本人につかまえられて首を切られる。(大笑い)エの行かないように運動するは、つかまえられてから首なんか切られる(笑い)。だから少しでも国のために役立ってアメリカ人を殺したい。

T 39 少しでも、国のために、アメリカ殺したい。逃げてもどうせつかまる。運動してもつかまる。少しでも役にたたい。ともかく、その方がかつこええやないか、どうせ死ぬんやないか。そういうこと?

P 15 最後に決めるばあ。

T 40 最後に決めるね。

T 41 はい、まだあるの、二人やで二人、三人多いぞ、おまえ。

(突然)

P 16 先生、字まちがえてるよ。最後だよ。

T 42 これ、最期ってよむの。

P 17 よまないよ。

(よまないよという騒しい声)

P 18 教師なのに漢字もわからんか。

(仕方ないので、最期を最後とのおす。あくまでも、読むのだと頑張ればよかったかもしれないが、論題からそれるので妥協した。)

P 19 にくいアメリカ人を一人でも多く殺したい。

T 43 同じやないか。

P 20 それにお国のために役立ちたいということと、今から考えると、いつも近くにいるアメリカ人にいたずらされ、いじめられたから、恩がえしか。

T 44 おんがえしか。おい?

P 21 しかえししたい。

T 45 最後、ア、いこう。いやエやエ。

P 22 死に行くとお母や弟や妹とはなれて死ぬなんてできないと思う。いくらお国のためでも、自分の一つの命を捨てるなんてできない。戦争に参加したくないし、させたくない。

T 46 自分の命をすてたくない。

P 23 いくら戦争とはいえ小学生や家族まで、まきぞえにしてまで、戦争に行かなくてもいいと思つたから。人と人が血を流して、戦うようなことに力をかしたりするのはいやだから。みんなにも、そんなことに協力するようなことはやめてほしいと思つたから。

T 47 自分の命を捨てたくない。そして人と人との戦いに力をかさないなどという主張だと思います。

T 48 さて、今から、二分間与えますので、どこでもいいです。質問してもらいます。

P 24 だめなの？ 反対意見は。

T 49 反対意見、質問いいです。受けつけます。二分間、個人で考えた上で、班で代表出して下さい。一つの班二つまでみとめます。（ざわめく）だれがやるか相談してください。

（その間にイの補強のため、岩田義道ぎやく殺の写真を見せる。）

T 50 どこに質問する。

P 25 逃げるに対して、逃げてるときに殺されたらどうする。

T 51 はい、すぐ答ええ。

P 26 逃げてても殺されるとか言っているんですけど、自分の意志も関係なく仕方なく入るとこよりは、逃げた方がずっと、自分の意志で逃げているんだからいいと思います。（拍手）

T 52 意味わかった。はい、他に質問。

P 27 ウの逃げるに質問したいんですけど、逃げて、その途中に、みつかつて殺されるよりも、お国のためとか、一人でも二人でも多く殺して（笑い）、外国人殺し

て、お国のために一つでも役立って死んだ方がいいんじゃないですか。（拍手）

T 53 ともかく、アメリカ人を一人でも多く殺してお国のために。

P 28 お国のためとかいうんですけど、国が戦前までに何か沖縄のためにしてくれましたか。その前にもう一度沖縄人を馬鹿にしたりするだけで、さつまたが沖縄を支配したりそんなことをするだけで、何のためにわざわざお国のためとか言って、お国のために死ぬのはアホらしいし、それなら自分で逃げた方がいいと思う。

（ハイ、ハイという声）

T 54 待て、まだあるって。

P 29 自分で入ると言った人に言うんですけど、ああいうことほどアホらしいことはないと思います。それはどうしてかといいますと、逃げるから殺されるとか、そんなことより、なんでへんな国のために、血を流して同じ人間どうしなのに戦争しなくっちゃいけないんですか。それよりは、あんなに悲惨な戦争よりは、逃げた方がずっといいと思います。

（反論のための声と挙手）

T 55 一つだけ反論を許そう。

P 30 ……………

T 56 じゃあ、後にしよう。他に質問、ハイ、エいこう。

P 31 逃げるというのは一人だけでしょ。だったら、家族を置いて逃げるというのは、ひきょうじやないですか。

P 32 逃げるというのは、一人だけではなく、もちろん家族をつれて逃げます。どうしてかというのと、

(反論のための大声と挙手)

T 57 待て、静かにせえ。

P 33 みんな一人だけとか言っているんですけど、家族の意志が、みんなに逃げる意志があつたら、それだけ自身自身一人一人の意志なんだから、一人で逃げるということになるんじゃないですか。それに言うんですけど、反対して家族を、いろいろ世間からあんなに言われるよりは、自分達で逃げてから少しでもあんなふうな戦争にまきこまれないように、一生けんめい、逃げた方が、まだいいと思います。

T 58 何となく、アイ負けているよ。アイ負けているよ。

(ハーンという大声)

T 59 いいこう、イ。

P 34 エの人に聞くんですが、エの人のようにやったら、こんなみたいに(写真をみせる)拷問されて殺されるんですけど、どうするんですか。

T 60 和哉に代わって説明しますと、この人は戦争に反対しました。そして「おまえ、こんなことやったらあかんやないか」と言われて、けいさつにつれていかれました

そして戦争に賛成するようという形で、ブシュブシュつかれて拷問うけたんだよ。おまえら耐えられるか。(耐えられるという弱々しい声) 考えてみい。教師にぶんなぐられてよ、すぐにあやまるような人間がどうして耐えられるか。(笑い、わめき)

T 61 はい、他に、エ、いこうエ。

P 35 戦争やめさせるために、一生懸命運動したんだからああいうふうになつてもかまわないと思います。

T 62 ア、いこう、ア。

(どうしてアばかり当てるのかという声)

T 63 どうしてつて、アは負けているのに。

P 36 (小さな声で) ウの人にいますが、逃げるのはひきょうじやありませんか。

P 37 言いますが、あんなふうに自分で進む人は、それは自分の意志だし、それに逃げる人は逃げる人で自分の意志で決めてる人だし、あんなアメリカと血の流しあいをしたければ勝手にして、逃げたい人は逃げたら、何で悪いんですか。それに非国民とか言われるんですが、平和を願う人間の方が戦争をする人間よりずっと偉いと思います。

P 38 エの人に聞くんですけど、もし、政府側がうけ入れなくて死ぬ人多かつたらどうするんですか。アにも聞きますけど、特攻隊みたいに一人も殺せなくて、ばか

みたいに命だけ捨てて何になるんですか。それからイにも聞くんですけど、自分の意志がなくて仕方なく入るのに、そんなことがおもしろいんですか。

T 64 他に反論………ア。

P 39 時間ください。

T 65 時間ない15秒。

P 40 ハイ。

T 66 はい、イ。

P 41 ウのさっきの質問に答えますが、殺されるから入る。

T 67 殺されるからよ、ほんとうにあの状況では、逃げてもしてつかまったらすぐ殺されるやないか。それよりもまだましやないかというわけ。

T 68 ア、いけ。

P 42 さっきのことですが、おりえさんは沖繩には何もしなかったんじゃないかと言いましたが、それは日本の人々は沖繩に何もしなかったかもしませんが、日本は沖繩にとつては大事な国、それに国を守る義務もあると思うし、日本の国の一つでも役に立って、それにウの逃げるに言いますが、そんな人はどうもがいても、結局はつかまって死ぬだけだし、どうせなら国のために役立った方がいいんじゃないですか。

T 69 あと二つでうちきります。

T 70 はい、ウいつて、エいきます。これでうちきります。

P 43 イの答にいうんですけど、仕方なく入って殺される場合があるんですけど、それよりも逃げた方がいいと思います。

P 44 先生、まだ続き。

P 45 それにアに答えますが、日本は沖繩にとつて大事な国だといいますが、沖繩は前は独立していたんだし、琉球王国だったんだし、それに中国との貿易もあつたんだから、そんなに日本が大事というわけでもないし、日本軍はかえって民衆を犠牲にして、自分達は助かるうとしたんじやないですか。あんな戦争の本なんか読んでも、だいたい日本兵は民衆が入っている壕にでも入ってきて民衆を出して、自分達がかくれようとする人ですから、そんな人達のために犠牲になるよりは、自分が思ったとおり自分は逃げ続けて死んだとしても、それでもあんな殺し合いの犠牲になるよりはいいと思います。

T 71 はい、最後、いきます。

P 46 エでは、ウの質問に答えるんですけど、戦争をやるにように、みんなを説得するんだから、ウのように逃げるよりも、エのように日本の国に対して少しでも戦争をやめさせるといふ平和の願いつていうか、そんなものに活動した方が役にたつと思う。

T 72 ほう、だいたい議論は出つくしたみたいなので、最後にまとめます。まとめは同じように鉄血勤皇隊に入っ

たであろうという人のパネルがあります。これがそのかつこよく死んでいった。(もう一回遺書の最後の部分を読む)……「ちるべきおりをみて散つてこそ、男と生まれてかいはありけり」と言つて死んだ最後の姿がこれです。……おそらくたまにあつてます。

P 47 先生、これなんね、黒いの。

T 73 はえ。はえがたかつて、死んでるんです。

T 74 各班、枚数だけ取りにこい。(高尾による少年ぎやく殺のプリント『太陽の子』一三〇号／＼資料4／＼をよませて、おわつた。)

(四) 『わかつたこと』『疑問に思つたこと』よりわかる分析

1. 『わかつたこと』／＼資料5／＼より

アのもの6人が、3・4の認識をしたということは、戦争に対する肯定↓否定への立場の起点(ゆさぶられ)となつたとして評価してもいいと考える。また、14の認識の二人は事実誤認がある。

戦争はおそろしいという人が16名と一番多かったことは授業を通して戦争の悲惨さの再認識という点では評価されるものの、それが理性化(疑問のところでは戦争体制に対する疑問を持つたもの6名)した人が少なかつた。

3・4・8で侵略戦争の性格のある側面をおさえること

ができた。

2. 『疑問に思つたこと』／＼資料6／＼より

何故、戦争はおこる(10名)という疑問を引き出した。

たいへん大きな問題だが、次に戦争を科学的に追求する目につながつたのではないか。また、イの人のうち30%が2に反応している。このことは、仕方なく入る。しかし軍隊に入つたらあんなに人間が変わるんだとゆさぶられ、そこに止まらず何故心のやさしい人が人を殺すんだという社会体制を追求する芽をつくつた。

ウの疑問(21・22・23)は戦地のようする話し合いから当時の教育思想統制への疑問をみちびき出したといえるのではないか。

エの人に8・13の疑問が出たということは、単に平和は尊いからという紋切り型ではなく、戦前の社会状況を視野に入れて考えなければならない、というところに発展した。

(五) 授業の問題点

発問「君たちだつたら鉄血勤皇隊に入るかどうか」という行動Ⅱ思想をいきなりとつたため、根拠の弱い議論が多く出、資料に依拠した多様な認識の上に議論することができなかつた。誰もが参加できる授業ではあつたが、当時の社会状況から、こんなことを議論しても当時としては結論はきまつており、非歴史的な議論であつたといえよう。

(首里中学校)

資料1 指導案

教師の発問、指示、助言	生徒の反応	形態	時間	留意点
1.遺書の説明 (『太陽の子』129号)		一斉	5分	むつかしい言葉がわかるように
2.当時のようす (1)那覇のはいきょ (パネルで) (4)米陸軍上陸のようす説明		一斉	3分	
3.君たちだったら、鉄血勳皇隊に入れといわれたらどうするのだろうか。 (1)いさんで入る (4)しかたなく入る (2)逃げる (4)いかないように説得してまわる		一斉	2分	
4.問題の意味のわからない人はいませんか。		一斉	1分	
5.それでは、アイウエどれをえらびますか。 まずえらばせる。 そして ア、イ、ウ、エを選んだ理由をかかせる。 机間巡視 どれが多いか、どういう理由があるかみてまわる。	えらぶ理由をかく	一斉	7分	ア、イ、ウ、エを選んだ者の理由が弱いとき、もしくは少ないとき、資料をア、イ、に与える (4)小林多喜二の「ごうもん」の写真

教師の発問、指示、助言	生徒の反応	形態	時間	留意点
				(4)当時の社会状況の資料
6.ア、イ、ウ、エどれをえらんだか挙手させ、グループにわける。	移動		3分	標示板の用意 多いのはその場 少ないのを移動させる。
7.ア、イ、ウ、エを選んだ理由をまとめてグループで発表	相談して代表2人を決める。	グループ	5分	相手の言うことをメモにとらせ、反論の足がかりをつくる。
8.グループごとに相談し、質問事項を話しあう (机間巡視)	話しあい (グループ内)	グループ	3分	弱いところ(特にア、イの弱いとき)を助ける。
9.質疑応答	互いに質問する		5分	ア、イに勝たせるように
10.まとめ ・学徒兵の最期の写真みせる ・ア、イをえらんだ者に対する批判の意味をこめた事実を紹介 ①逃げる兵の一節紹介 ②逃げる兵に関する投書の紹介			5分	
11.きょうの授業をとおして ア. 考えたこと イ. 疑問に思ったこと				

資料3 戦時下の社会生活

1. 治安維持法による弾圧

戦争に反対した人々はどのようになったでしょうか。

刑務所に入れられた。ただ刑務所に入れられるだけではありません。ひどい拷問にありました。その為に殺された人々も可成いました。又は十八年間もずっと刑務所にいられる人々もいました（戦争が終ってから刑務所から出された）。

拷問や長い刑務所生活に耐えられず、「もうそういう事は言いません。戦争に、日本の国の為に一生懸命頑張ります」と言って刑務所を出された人々も数多くいました。

当時、戦争に反対する人々やそれに疑問をもつ人々は、非国民、国賊とののしられ、一般の人々からも白い目でみられ、相手にもされませんでした。また相手（つきあい）をすると相手にした人も刑務所に入れられるというありさまでした。

2. 言論、思想、学問の自由の弾圧

戦争に反対する本や戦争に疑問をもたせるような本は出版を禁止されていましたし、新聞にもかけませんでした。

そのような本をもっていただけで刑務所に入れられることもありました。

3. 侵略戦争の美化と正当化

当時の人々は戦争はむごいもの、日本軍はまちがっているという考え方をもっていませんでした。何故そうなったのでしょうか。

それは、中国やアジアに侵略し、そこの人々を弾圧したり、殺したりすることは国のためにやっている、「東洋平和を築くための戦争」「悪者をこらしめる戦争」というふうに教えられていたのです。

「一億一心火の玉となって」という言葉、「ぜいたくは敵です」という言葉も大々的に宣伝されていました。そのような社会の状況の中で反対したり、疑問をぶつけたりすることはなかなかできないことでした。

戦争反対や疑問を出そうものなら、ひどい拷問、長い刑務所ぐらしが待っていました。

戦争に反対したり、疑問をぶつつけたりしてひどい目にあうのは、それを言った者だけでなく、家族にまでも、そのわざわいが及びました。

4. 隣組制度

「あそこの家族から非国民が出た、あそこの家族とはつきあうな」「会社につとめていても誰も相手にする人がなくやめざるをえない」という目にあう人もいました。又、家族の人々がひどい目にあわされるので、泣く泣く、「もう二度と戦争反対といったりしません、協力します」と言わざるをえない人々もいました。

資料 5 わかったこと

		ア の 1 2 3 4 5 6 7 8 9 男 " " " " " " " " "									イ の 10 11 12 13 男 " " " "				
感性的認識	1. 戦争はおそろしい	○									1	○			
	2. 戦争は大きかった														
具体的戦争 の実態	3. 戦争は人をかんたんに殺す	○	○								2				
	4. 戦争は人の性格を変える	○ ○ ○ ○									4	○			
	5. 日本兵はひどい														
	6. 人々の心のみにくさ														
鉄血勤皇隊	7. 鉄血勤皇隊の仕事	○ ○									3	○ ○ ○			
	8. 辞世の句はカッコいいが勤皇隊の 最後は悲惨														
	9. 中学生が戦争にとられた														
	10. 戦争に行くとき遺書														
戦争中の社 会状況	11. 戦争に反対している人を殺すほど けいさつはひまだった														
	12. 戦争中、平和・自由はない														
	13. みんな、こんな苦しい生活にたえ た														
議論の中で	14. 逃げる人がいなければ日本は勝っ ていたかもしれない	○ ○									2				
	15. どんなに、にげてもみつかって殺 される														
	16. 勇んで入るといふ人もいることを 知った														
	17. ア・イも生きのびれなかった														
	18. 国のために役立ちたいという人の 気持ちがよくわかった														

[illegible]

資料 6 疑問に思ったこと

		ア 1 2 3 4 5 6 7 8 9									イ 10 11 12 13				
	1. 何故戦争はおこる	○									1		○		
戦争の性格をとる	2. 何故心のやさしい人が人を殺した							○			1	○	○		
	3. あんなに若い勤皇隊はどうしてこきつかわれた														
	4. 何故、命をすてる														
	5. 何故、他の人まで犠牲にする														
	6. 何もしてくれなかった日本のために何故命をすてる														
	7. 中学2・3年生はどうして兵隊になった														
主戦体の側に反対の疑問	8. にげた人や運動をおこした人はいなかったか														
	9. 戦争にいきたくない運動をおこすと何故、ごうもんした														
	10. 平和という言葉が何故でてこない														
	11. スパイと何故きめつける														
	12. にげたら何故非国民か														
	13. 刑務所でも生きられる														
議論の中から生えてきた疑問	14. 逃げるのはどこににげる		○								1				
	15. 逃げるという人が七人もいた			○							1			○	
	16. 逃げて何にもならないのに何故にげる					○					1				
	17. にげることはむづかしい									○	1				
	18. ウ・エの考え方														
	19. 家族をすてて逃げるのはひきょうではないか														
	20. 仕方なく入った人が多かったのでは	○									1				
	21. 戦争っていやなものなのにどうして勇んで入る														
	22. 日本兵はそんなにアメリカがにくいのか														
	23. 戦争に行った人の気持ち														
その他	24. そく死でなく、死んだ人の気持ち														
	25. 死んだ人はおそう式をしたか	○									1				